

何名葉出たる愈々多し
成りて想像するも少く
以て其証感者一と持て
其あまもを括り用ひ
抄の一に傳寫し置きて
採りて其の他も士人
の好む者にして其意
を記す

よこ

同みよるがごとく
その附するがごとく

棲燕島仁友

壬午年

何名葉出及食之多祥
成以返想像之も以経なく
以是証感書之也持之亦一
并其も之を扱用 宛根し
形の一外信寫江を修之
一 聲之も之を其書之也
之也

同
中
中

樓
樓
樓

